

## 第 11 章 ミュータブルな状態 (Mutable State)

これまで示してきたほとんどのプログラムには副作用(\*1)はありませんでした。したがって、**時間**の記述は問題になりませんでした。終了するプログラムでは、アクションの列は同じ結果をもたらします。これは計算の置き換えモデルにも反映されており、書き換えステップは項のどこにでも適用可能で、終了する様な書き換えは同じ答えをもたらします。実際、この**合流性**は計算、関数型プログラミングの基礎をなす理論の深遠な結論です。

この章では副作用を持つ関数を導入し、その振る舞いを調べます。その結果、これまで用いてきた計算の置き換えモデルを根本から修正する必要に迫られるでしょう。

- [11.1 状態を持つオブジェクト \(Stateful Object\)](#)
- [11.2 命令型制御構造 \(Imperative Control Structures\)](#)
- [11.3 高度な例：離散イベントシミュレーション](#)
- [11.4 まとめ](#)

(\*1) プログラムの中には標準出力に出力するものもあり、厳密にはそれは副作用である、ということをごここでは無視します。

[前ページ](#) [11 章](#) [目次](#) [次ページ](#)

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 名前:   | <input type="text"/> |
| コメント: | <input type="text"/> |

投稿